



中堅教諭等資質向上研修の一環で研究授業を実施しました

9月10日(金)に本校の国語科担当である森永教諭が中堅教諭研修の一環で「国語総合」の研究授業を1年3組の生徒たちと一緒に実施しました。森永先生は、現在厳木高校勤務4年目、第1学年担任、教務部副主任、野球部顧問と校内の各部署で中堅教員として責任ある業務を任せられその中心として活躍してくれています。

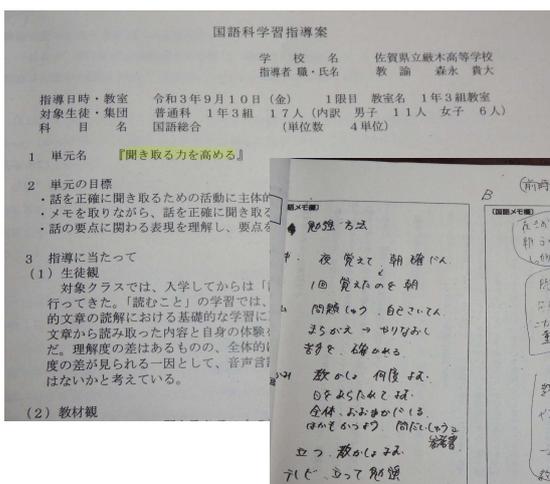
中堅教員研修とは、教職員の質の向上のため文部科学省が指定している、初任者研修など同様の「法定研修」の一つです。今回は、研究授業を実施しましたが、他にも生徒指導、教育相談、特別支援教育に関する研修など、日々の業務で忙しい中に多彩な研修にも取り組み教職員としての資質向上に努めています。

さて、今回の授業は「聞き取る力を高める」という題材です。高校ではあまり「国語の聞き取りテスト」は実施されていないようですが、生徒たちは中学校の時には国語の聞き取りテストを経験したようです。他教科ではありますが、英語では授業や模擬試験では日常的に聞き取り(リスニング)テストが実施されていますね。今回は学習をとおして音声による情報をより正確に理解することができるよう、メモの取り方や、要点のつかみ方等を体験を通して学ぶことを目指した意欲的な授業実践でした。



この日の授業では、生徒たちはまず「梅干し作り名人」の話を読んで、重要な箇所はどこか、そして何故そう思ったかなどをグループで話し合っていました。熱心な話し合いができていたグループもあって、普段から良い人間関係が構築されていると感心しました。

次に、実際に「擬音語、擬態語」について調べた結果を発表する内容を音声で聞きながら、メモを取り、最後にはテストに答えるという活動に取り組んでいました。45分という限られた時間の中で、生徒の主体的な活動を引き出した授業で、保護者の皆様にもご覧いただきたい授業でした。



【校長のつぶやき】私は元々英語の教員ですので、リスニングという活動は教科の特性上必要な学習活動と考えていました。しかし、今回、森永先生の授業では国語の聞き取り活動を通して、「日常の学校生活においてホームルームでの指示内容等を正確に理解することにつなげよう」という試みに大変感心しました。森永先生は教材研究にも熱心で授業にも定評がある先生ですが、やはり、教室で学んでいることは教科の中だけで完結してしまうのではなく、日常生活に生かせなければ「Mottainai」と再認識しました！お疲れ様でした。